



決算特別委員会質疑

決算特別委員会の5日目、10月14日(火)に右記の内容で質疑を行いました。今回は昨年3月の予算特別委員会で尋ねた項目のおさらいと、ラピダス社進出に関連して市民から質問や要望が出ている項目を取り上げました。その一部をご紹介します。

1 歳入について (1) 市税歳入の状況

【質疑1】 まずラピダス社の進出表明以降市内の不動産価格が上昇していることによる固定資産税の一般個人の納税義務者の課税額と、前年度上昇率を伺う。また、納税義務者一人当たりの課税額が3年間でどの程度の負担増となっているかをうかがう。

【答弁】 令和6年度の固定資産税の内、個人の一般住宅用地の固定資産税は、令和6年度の課税額が、約4億604万9,000円、令和5年度が約3億7,720万2,000円となっており、前年度上昇率は、約7.6%となっている。3年間の納税義務者一人当たりの課税額は、令和4年度が約1万5,700円、前年度から400円の増額、令和5年度が約1万6,000円、前年度から300円の増額、令和6年度が約1万7,000円、前年度から1,000円の増額となっている。

【質疑2】 市内地価の高騰が続いているが、今後の固定資産税の上昇見通しについて見解をうかがう。

【答弁】 令和9年度の評価替えについては、価格基準日が未到来のため具体的な上昇見込み額を算出することはできないが、直近の地価等が上昇していることから、上昇を見込んでいる。なお、固定資産税の土地に係る課税標準額の上昇幅が急激な場合、上昇幅を一定範囲に抑える負担調整措置がある。(中略)この負担調整措置により、評価替えによって急激な税負担となる場合でも、緩やかに税額が上昇することになる。

(北山のチェックポイント) 高騰し続ける市内の不動産価格によって、個人の持ち家の固定資産税も年々上昇しています。今回はその推移と市民への影響について問いました。市の答弁では、負担調整措置によって激変緩和されているとのことです。しかし、ラピダス社進出による一般市民への波及効果としては明らかにマイナスの側面となるため、固定資産税の評価替えの年にはしっかりと広報すること、また、長年千歳市に住み続けている方への利益還元となる事業を検討するようしっかり要望致しました。

(2) 国民健康保険料

【質疑1】 令和6年度歳入に1億1,500万円の歳入欠陥が起きているが、その原因について伺う。

【答弁】 本市の国民健康保険料については、国保加入者の保険料負担が大きく変動しないよう、2%以内の改定を行ってきたところ。北海道からは、道内自治体の保険料水準の統一に向け、令和6年度より、一般会計からの法定外繰入金を解消する方針が示された。北海道の方針に基づいた場合、本市の令和6年度予算は、保険料の5%の引上げと財政調整基金から3,000万円を取り崩すことになるが、保険料の激変緩和を図るため、保険料の引き上げ率を3%に抑制し、その不足分を基金から、さらに5,700万円を取り崩すこととした。しかし、6年度

質疑項目

1 歳入について

- (1) 市税歳入の状況
- (2) 国民健康保険料

2 民生費について

- (1) 学童クラブ事業費
- (2) 児童館管理運営事業費

3 土木費について

- (1) 千歳駅前広場再整備事業費

に入ってから、定年年齢の引き上げによる、再雇用の増加や、社会保険制度の改正に伴う、社会保険適用拡大により、加入者数が想定以上に減少したことに伴い、保険料も大きく減少するため、改めて保険料の試算を行ったところ5,800万円の不足が生じたため、令和7年3月に不足分の合計、1億1,500万円を基金から充当した。

【質疑2】

令和6年度に国保財政調整基金を活用したことにより、現在の基金残高はいくらあるのか。また、今後の安定的な歳入確保に向けた取組について伺う。

【答弁】

国民健康保険事業、財政調整基金の令和6年度の基金残高は、5,864万9,446円である。保険料水準の統一に向けて、北海道が示す「決算補填や、保険料の抑制を目的とした一般会計からの法定外繰入金の解消」を進めるとともに、財政調整基金として「令和12年度までに、事業費納付金予定額の5%程度である9千万円を目安として保有すること」が求められていることから、今後、計画的に積み立てを行っていく。

（北山のチェックポイント）令和12年度から国民健康保険料水準の全道統一が決定していますが、その過渡期にあって、市町村の一般会計から赤字額を補てんすることはできなくなっています。令和6年度は上記の理由によって財政調整基金（貯金）から歳入欠陥分を補てんしたことですが、この結果、現在の残高は6千万円弱まで落ち込んでおり、目標とする9千万円の差額分についても、今後の国保料歳入の中で賄わなければいけません。

そもそも加入者の8割が所得200万円以下という現状において、バランスの取れた国保料負担が実現できるのか、健康な中間所得層以上の加入者にとっては、事実上10割を超える医療費負担が恒常的になり得ることも考えられる中で、国民健康保険制度が今後も持続可能なのか、注視していく必要があると感じています。

3. 土木費

【質疑1】

千歳駅前広場再整備事業を終え、ラピダス関連の送迎バスも増えている中、路線バスを含めた千歳駅を発着する大型バスの運用状況はどうなっているか。

【答弁】

千歳駅前再整備事業を終えてからの大型バス等の運用状況については、改善策として「バスレーンの出口を北側のほか西側に増設し、西側から流入するバスは北側出口側の通路に合流せず、そのまま西口から出られるようにしたこと」や「路線バス事業者のか、乗降場を利用している、ラピダス社などの送迎バスについても、停留車両が重ならないよう事前に運行ダイヤを調整したこと」、「バスレーン停車場の増設やマイクロバス専用乗降場を新設したこと」などによって、混雑することなく千歳駅を利用していただいている。」

市政や議会に関するあなたの疑問やお困りごとをぜひ北山けいたにお聞かせください。



メール: mail@kitayama-keita.com

ホームページ: <http://kitayama-keita.com>

私、「北山けいた」は、「公正・公平」な社会と、お子様からお年寄りまですべての世代が笑顔で生活できる環境の形成を目指しています。皆さまの市政に対する素朴な疑問をご遠慮なくお寄せください。また、市民参加型の市政運営を目指して、様々な市民活動も積極的に支援しております。

お問い合わせは上記のメールからお願い致します。

ちとせみらい通信は私の想いを届けるかわら版です。

